

| 教育・保育目標                                                                                                                |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 心身ともに健やかでいきいきと生活する子どもの育成 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 重点目標 | 「感性が揺さぶられる環境作り」<br>～アトリエから広がる子どもの可能性を考える～ |                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目                                                                                                                   |                    | 達成目標・具体的施策                                                                                                                                                                                                                                                                             |                          | 年度末評価（成果・課題・改善策）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |      |                                           | 学校関係者評価                                                                                    |
| 学びの場である保育の充実                                                                                                           | 「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築 | ・年3回（7・11・1月）「生きる力」の土台となる自己肯定感を育む関わりについて考える機会を持つことで、愛情深い教育・保育を行っていきけるよう職員の意識を高めていく。                                                                                                                                                                                                    |                          | ・職員間で必要に応じて振り返ったり考えたりする機会を年3回以上持ったことで、職員の意識が向上し、子どもにとってよい関わりに繋がった。また一人一人の自己肯定感が高まることをねらいとした保育参観やお楽しみ会を行った際、自信を持って取り組む姿から自己肯定感の向上が伺えた。保護者アンケートにおいては肯定的な回答が98.2％であった。今後も職員全体で愛情深い教育・保育を行っていく。                                                                                                                                                                                                                |      |                                           | 愛情を基盤として心豊かに肯定的に子どもと関わっているからこそ、主体的な子どもの姿に繋がっていることがわかる。                                     |
|                                                                                                                        | 健やかな体の育成           | ・季節の食べ物や園で収穫した野菜について調理職員や担当が子ども達に話をする機会を年に6回以上はもつ。<br>・HP（ホームページ）や玄関掲示を活用しながら保護者にも食育について啓発できるようにする。<br>・養護教諭の「ほけんのはなし」の内容を保護者にも啓発できるようにほけんだよりやHPで知らせていく。<br>・身体を動かすことの心地よさを知るために猪名川や小学校に年に7回以上は行くようにし、子どもがすすんで身体を動かす機会をつくる。<br>・保育者がSDGsの観点を意識して食や健康について子どもと話しをしたり、一緒に考えたりできるような機会を持つ。 |                          | ・旬の食べ物を調理職員が直接子ども達に話す機会を7回もった。調理風景やドキュメンテーションを玄関に掲示することで保護者への啓発にも繋がった。給食のレシピ掲載は玄関配布の方が保護者の目に留まりやすいので次年度はメニューの内容を選定しレシピ配布を増やしていきたい。<br>・「ほけん」について毎月ほけんだよりで知らせたが、HPの掲載は2度にとどまった。年間で計画的に掲載できるようにしたい。<br>・気候の良い時期は週に1度以上散歩に出掛けることができた。行きたい子どもが自ら散歩に行けるように表示をつくる等玄関の環境を整えることで子どもが進んで散歩に必要なものを準備して出掛ける姿が見られた。<br>・SDGsのことを担任がクラスの集まりで話をしたり、園内の至る所に掲示をしたりすることで子どもの意識づけに繋がった。またその様子を「こどもだより」に載せることで保護者にも伝えることができた。 |      |                                           | 具体的な目標を立て、実践している。園での実践を家庭でもいかせるように共有を図りたい。<br><br>自然環境豊富な立地のよさをいかして園外の自然に触れる機会をもっている。      |
|                                                                                                                        | 資質・能力を育む保育の推進      | ・幼児は月1回以上、棟毎にクラスで深めている遊びをウェブマップなどに記して共有し、資質・能力を育む環境の再構成、共通理解をする。<br>・乳児は、月末に月1度、職員間で語り合い、次月の子どもへの関わり方や保育環境について共有する。                                                                                                                                                                    |                          | ・乳児、幼児共に月1回以上、資質、能力を育む話し合いの場を持つことができた。<br>・幼児では、視覚的な写真を用いたドキュメンテーションや読み取りシートなども活用し、子どもの姿の共有することで、子ども達がより自ら考え工夫して遊ぶ環境へと再構成できた。<br>・乳児は、計画通りに行ったが、写真等の視覚的な記録の積み重ねがあれば、より子どもの共有が出来たと考える。次年度は視覚的な写真等を活用したい。                                                                                                                                                                                                    |      |                                           | 子どもが「やりたい」と思えるような保育環境構成を、チームで行っていることがよくわかる。                                                |
|                                                                                                                        | ちがいを認め合える仲間づくり     | ・幼児クラスでは、子ども皆が自分の思いを出し認めあえる対話の場をもつ。週に1度は全員の子どものにスポットがあたるようにする。対話の内容については計画を作成する。<br>・年に2回程度保育者の人権意識を高めるために、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」などを用いて、保育者自身が子どもとの関わり方を見つめなおす機会を増やす。                                                                                                                    |                          | ・3歳児クラスでは日々の生活の中で自分の思いを保育者や友達に伝え、受け止めてもらえるよう関わった。年度後半には皆の前で伝え合う機会を設けた。4、5歳児クラスでは週に3～5回程度クラスで話し合う場を設けた。ジェンダーや気持ちを考える言葉についてなど様々な話題で話し合うことができ、後半には自己表出が難しかった子も自分の意見を言えるようになった。また、ピーステーブルを設置したことで自分の思いを友達に伝え、相手の話を聞く姿に繋がった。今後も計画的に場を設けたい。<br>・職員会議の際に人権について話し合ったり自分の保育を振り返ったりする機会を4回設けた。不適切保育について客観的に理解することで自分の言葉かけを見直したりする機会に繋がった。                                                                            |      |                                           | 園では十分に思いを受け止めてもらうことで、次第に人の話を聴くという姿勢に繋がる。どのような言葉が子どもの心に届くのか、園で意識して関わっていることを多くの保護者にも共有を図りたい。 |
| 保育者の資質向上                                                                                                               | 園内研究研修・充実          | ・「感性が揺さぶられる環境作り」～アトリエから広がる子どもの可能性を考える～ についてチームで語り合い、学びを深め、一丸となってよりよい教育・保育を目指す。<br>・講師を招聘した園内研究公開保育を年1回行う。                                                                                                                                                                              |                          | ・猪名川や自然豊かな近隣地域に出かけ、感性を揺さぶられるような体験ができるような機会を作った。用意する素材や飾り方等工夫し、アトリエの充実に努めた。感動体験後にのびのびと表現する子どもが増え、作品やドキュメンテーションを多くの人に見てもらえるような場に掲示したことで、保護者との会話も増え、子どもの自己肯定感も高まった。アトリエが子どもにとって、自分の感情を存分に表現できる場であり、ありのままでいられる居場所となっていた。保育者にとっても、子どもを多角的に見ることができる場となった。次年度はさらに担任との連携を深め、自己発揮できる場としての存在意義を高めたい。また自分からは興味を持ちにくい子どもをいかに誘いかけていくか工夫したい。                                                                             |      |                                           | やりたいことが主体的にできるという環境が、絵画などの表現活動を楽しむ姿につながっているのがよくわかる。                                        |
|                                                                                                                        | チーム保育の推進           | ・職員間で互いのよさや感謝を伝え合う機会を年2回（6月、10月）、2月にチーム保育の振り返りの機会を設ける。6月は乳児、幼児、10月は全員で行い、その後乳、棟会議で共有し職員関係を深める。<br>・短時間勤務の職員も参加できる方法で行う。                                                                                                                                                                |                          | ・新しい職員もいたので、1回目は身近なクラス担任同士で話し合いを行った。<br>・様々な職種や短時間勤務職員も紙面で参加できるようにしたことで、多角的に一人一人の職員のよさを伝え合うことができた。<br>・今後は、「チーム保育とは？」「どのようにしたらチーム力が高まっていくか？」などのテーマを変えてチーム保育についての認識を深めることが課題。                                                                                                                                                                                                                               |      |                                           | 細かい実践を積み重ねている。持ち味が違う職員で価値観を共有し、同じ目標に向かって邁進することでチームとなる。                                     |
| 開かれた・信頼される園づくり                                                                                                         | 小学校教育との接続          | ・オープンスクールや参観で子どもの様子を見てもらう機会をもったり、クラスだよりを通して普段の子どもの姿を伝えたりする。また、夏頃に資質・能力の育ちや10の姿の観点を踏まえた資料を配布し、こども園での活動を発信していく。<br>・授業見学、小学校交流、プールを借りるなど小学校での活動を通して子どもが身近に感じられる機会をもつ。                                                                                                                    |                          | ・11月に5歳児の活動・育ちや学びについての資料・こどもだより・遊びのドキュメンテーション・アンケートを配布することでこども園の活動や子どもの育ちを詳しく発信できた。次年度は、架け橋期の研修に向けて、小学校の先生方と共通認識をさらに深めていきたい。<br>・避難訓練・授業見学・プール等、計画的に小学校に行く機会を設けた。また、業間交流や小学生による紙芝居の読み聞かせでは子どもたち同士の交流に繋がった。これらの交流により小学校に親しみをもち就学への期待や意欲が高まった。                                                                                                                                                               |      |                                           | 子どもの安心感に繋がるよう、今後も密な連携を願う。<br>互いの教育・保育について、今後も知る機会をもつ。                                      |
|                                                                                                                        | 地域との連携             | ・Kメゾンときめきとの交流。敬老参観を通してより多くの地域の方との交流ができる機会を増やす。<br>・神津交流センター、地域の畑の訪問を年2回以上行う。ひょうたんの栽培、ひょうたんの給付け、さつま汁を地域の方と共に行う。<br>・オープンスクールで地域の方をこども園に招き、実際に園の様子を見たり教育保育を伝えたりすることでこども園についてより知っていただく機会を再開する。                                                                                            |                          | ・団らん交流会や町の先生の来園（計3回）を通して地域交流の機会を持つことができた。また、神津地域の特産物を知る機会に繋がった。<br>・地域の方の協力のもと計画通りに地域交流をすることができ、子ども達にとって豊かな経験となった。これからもより地域との関わりを大切にし、地域の方達に見守られているということを伝えていく。<br>・評議員の方に園内の環境をご案内しながら、子どもの姿や今求められている教育・保育について伝え、ご理解いただいた。今後いただいたご意見を教育・保育にいかしていく。                                                                                                                                                        |      |                                           | 様々な人に見守られていると感じられるよう今後も地域との交流を継続されたい。                                                      |
|                                                                                                                        | 子育て支援事業            | ・HPで月1回はむっくむっくルームの様子を配信し、利用者を増やす。担当者に限らず、全職員がむっくむっくルームの利用する地域の方と関わりを持つ。<br>・子育て家庭の不安を取り除き、楽しんで子育てができるように懇談会などの場で子育てについて話し合う。担任はクラスの保護者全員と月に一度話すようにする。                                                                                                                                  |                          | ・計画通り行った。次年度は行事だけでなく、園庭で遊ぶ姿等普段の様子を写真やエピソードで伝えるよう配信し、利用者数をさらに増やしたい。<br>・少人数での参加参観や懇談会は保護者とコミュニケーションを図りやすかった。しかし、保護者アンケートの「こども園は、お子さんのことについて、保護者の方と話すことができていますか。」の肯定的な回答が93.3％（昨年96.3％）で昨年度より肯定的な回答が少なかった。一方的にこちらから伝えるだけでなく、保護者の方の思いをしっかりと受け止められるよう意識していく。                                                                                                                                                   |      |                                           | 保護者としては、どんな小さなことでも伝えてもらえると嬉しい。                                                             |
|                                                                                                                        | 学校園の積極的な発信         | ・クラスだよりやHPなどを通して、遊びの中で大切にしたいことや保育者の子どもへの関わり方などが分かるような内容を配信していく。<br><br>・園内リスクマップの見直しや園庭整備などを保護者と共に行い、こども園の環境について考える機会をもつ                                                                                                                                                               |                          | ・定期的に園の様子や子どもの姿などを配信した。遊びの中での子どもの喧きや発見を内容に入れることで「遊びの様子が分かりやすく、子どもとの会話のきっかけになる。」との保護者の声があった。引き続き定期的に配信を行い保護者、地域との連帯を図っていく。動画での配信を少しずつ増やしていくようにする。<br>・今年度は5歳児保護者に園内リスクマップの見直しや園庭整備を保育者と共に行ったことで、園の取り組みを知ってもらうことができた。今後も園運営に携わってもらえるよう、継続していく。                                                                                                                                                               |      |                                           | 子どもの様子が可視化され、保護者の信頼を得ている。今後、先生方は目標数値に固執せずに、無理せず行っていかれたらよいと考える。                             |
| 備考                                                                                                                     |                    | ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。<br>・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。<br>・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。<br>・リスク担当者会で作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。                                                   |                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |      |                                           |                                                                                            |
| 学校関係者評価総括                                                                                                              |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                          | 次年度に向けた重点的な改善点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                           |                                                                                            |
| ・計画内容が具体的に、職員一同、教育・保育の方向性を共有しながら、子どもの主体性が発揮されるような環境づくりがなされている。<br>・肯定的に子どもを見守る姿勢が、小学校での学びの場で自分をのびのびと表現する姿に繋がることが予想される。 |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                          | ・対話を軸としたチーム保育の推進（チーム保育とは何か、チーム力を高める方法）<br>・担任とアトリエ担当がとものにつくる子どもが輝ける場<br>・子どもの資質・能力を育むために有効な環境構成の語り合いの工夫                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |                                           |                                                                                            |

